

【鈍川】

なか
どおり

50 鷹ヶ森城跡



季節になると、たくさんの彼岸花が咲く。



鷹ヶ森城はこの山の頂上にあった。



鷹ヶ森城 本郭 礎石建物跡(写真／今治市教育委員会提供)

神子之森に向かって左手の小高い山の頂上に鷹ヶ森城の跡がある。戦国時代(1570頃)、河野一族の越智駿河守通能の居城だった。

これまで、頂上付近の平坦地が本郭(本丸跡)と認識され、戦国末期ごろの石積みが一部に見られた。平成22年4月の埋蔵文化財調査で、これを裏づける建物の礎石・土師器・陶磁器・備前焼・鉄釘・壁土などが見つかった。



52 蛇淵



蒼社川上流の玉川、鈍川保育所の跡のすぐ下に蛇淵という淵がある。ここに大きな蛇が棲んでいて、その蛇にまつわる物語が残っている。生まれてすぐに母親をなくした娘が、数年後蛇淵で母親を見る。実は蛇だったのだが…。父親は、翌年の鷹ヶ森城落城の際に討ち死にしたと伝えられている。

この言い伝えは紙芝居になっている。

51 観音堂・越智駿河守の墓



観音堂の厨子内は通常は見ることができない。



越智駿河守の墓。昭和9年に建立された。



観音堂の扁額

観音堂の扁額は、伊予小松三代藩主・一柳直卿の揮(ご)つによる。

観音堂は如意輪寺とも言われていた。如意輪観音・青面金剛・地藏菩薩が祀られている。天正13年(1585)に鷹ヶ森城主だった越智駿河守が、豊臣秀吉の四国攻めで小早川軍に敗れこの地で自害し、埋葬されたと伝わる。境内に越智駿河守の墓碑が建てられている。